



LogTag Recorders

LogTag Analyzer

Quick Start Guide

Software Revision 2.2 Document Revision 1.0

Published 1. Oct 2011



Copyright

ソフトウェア「LogTag アナライザー」の使用について本書に記載されている情報は、使用の手引きとなることを目的としたもので性能を表明するものではありません。本書の内容は予告なしに変更されることがあります。別途記載のない場合、本書に記載されている企業、組織、Eメールアドレスおよび人物などは架空のものであり、実在する企業、組織、Eメールアドレスまたは人物との関連を意図するものではなく、あるいは推察されるべきものではありません。お客様ご自身の責任として、適用されるすべての著作権関連法規に従っていただくようお願いいたします。

LogTag Recorders 社は、本書の情報の正確性または当該情報の利用に関して、あるいは当該情報の利用に依拠しているか否かを問わず特許権その他知的財産権の侵害に関して、表明または保証をするものではなく、かつ一切の責任を負いません。

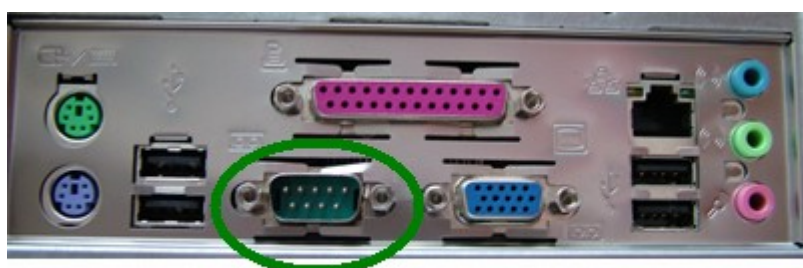
Copyright © 2004-2011 LogTag Recorders. All rights reserved.
www.logtagrecorders.com

クイックスタートガイド

インターフェースの接続

インターフェース・クレードル(略してクレードル)は、シリアルポート(RS232)に接続するタイプとUSB(ユニバーサル・シリアル・バス)ポートに接続するタイプの2種類があります。パソコンには、ポートタイプごとに複数の接続部がある場合がありますが、タイプごとに形が違うため、クレードルを誤った通信ポートに接続することはありません。本ソフトウェアでは、複数のクレードルを同時に接続できます。パソコンでサポート可能な範囲で必要な数だけ接続することができ、シリアルポート用とUSBポート用のクレードルを同時に接続することも可能です。

シリアルポート(RS232)用のコネクタは通常下の写真のような形状をしています。



Serial (RS232) Port on computer
パソコンのシリアルポート(RS232)



Serial (RS232)
Interface Connector
シリアル インターフェースコネクタ(RS232)

通常、シリアルポート(RS232)はパソコンの背面にあり1台につき最大2つ付いています。シリアルポート用インターフェース・クレードルのコネクタには、大抵プラグ部分にネジが付いているので、ご使用中誤ってコネクタが抜けることのないよう、接続の際にはネジを締めることをお勧めします。

USB デバイスのコネクタは下の写真のような形状をしています。



USB ports on the computer
パソコンのUSBポート



USB Interface connector
USB インターフェースコネクタ

USB デバイスのコネクタ部分や、パソコンのUSB デバイスの接続ポート付近には、識別しやすいようUSBマークが付いています。下の図はUSBマークの一例です。



4 エラー! [ホーム] タブを使用して、ここに表示する文字列に **Heading 1** を適用してください。

USB ポートは通常パソコンの背面にあります。パソコンによっては2つ以上ついており、フロントパネルや、デスクトップ型の上部、あるいはその両方にある場合があります。USB ポート用インターフェース・クレードルをパソコンに接続し使用するためにはドライバが必要です。ドライバは、本ソフトウェアのインストールの際同時にインストールされますので、USB ポート用クレードルをパソコンに接続する前にソフトウェアのインストールを完了してください。ソフトウェアが、接続状態にある USB ポート用クレードルをうまく認識できない場合は、ソフトウェアのインストールの際、必要なドライバのインストールに問題があった可能性があります。この後のセクション「[resolving USB driver problems](#)」では、USB ポート用クレードルをパソコンで使用する場合の問題をどのように解決するか、必要な手順について説明しています。

お使いのパソコンが Windows NT®を OS としている場合、USB ポート用クレードルはご使用になれません。Windows NT®は USB デバイスをサポートしていません。

インターフェースで LogTag を使用する

LogTag の前面をインターフェース・クレードルのラベルと同じ向きにし、コンタクト部を裏面にして、ちょうど下の写真のような向きでクレードルの挿入口に差し込みます。



Figure 1: LogTag in interface cradle

図 1: インターフェース・クレードル内の LogTag

クレードルの挿入口の内部を見ると、LogTag のコンタクト部とクレードルのコンタクト部の接触部分を確認することができます。

LogTag をクレードルの挿入口に差し込むと、わずかに抵抗を感じます。(クレードルの)コンタクト部が LogTag を「保持」する際に生じるもので異常ではありません。LogTag を取り除くと、(クレードルの)コンタクト部が元の位置に戻るためにカチッという小さい音がします。

LogTag のメモリー内に記録値が保存されている場合、ソフトウェアは自動的にデータのダウンロードを開始します。ダウンロード中は図のようなアニメーションが表示されます。

ダウンロードを中止するにはアニメーションの下の「Cancel」ボタンをクリックするか、「Esc」キーを押してください。

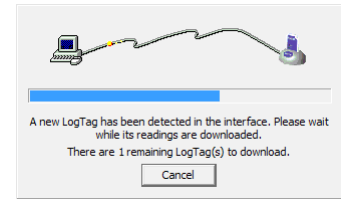


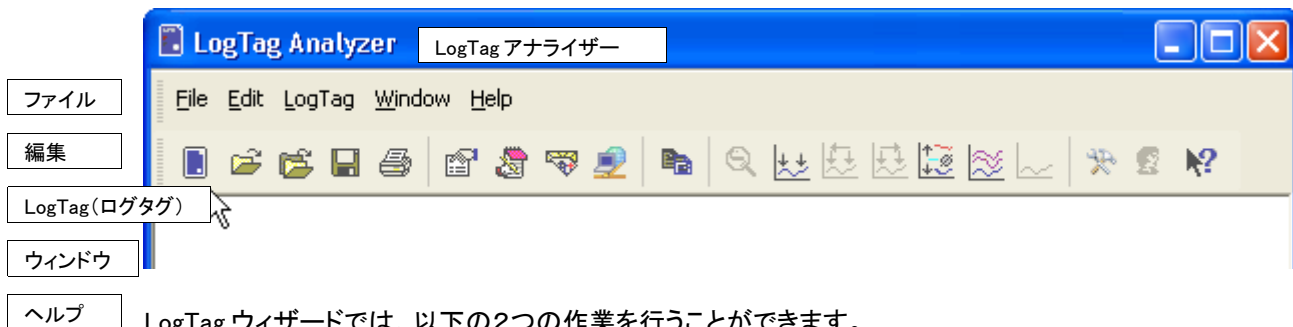
Figure 2: Downloading a LogTag Recorder

インターフェース・クレードルに1個の新しい LogTag が検出されました。
記録値のダウンロードが完了するまでお待ちください。
ダウンロードする LogTag は残り1個です。

図 2: LogTag レコーダーのダウンロード

ご使用前の準備

記録を開始するために LogTag の準備をしましょう。ツールバーの LogTag アイコン(📱)をクリックすると LogTag ウィザードが起動します。



LogTag ウィザードでは、以下の2つの作業を行うことができます。

- 1 LogTag がクレードルを介して接続している通信ポート(USB またはシリアルポート、あるいは両方)を検出し、LogTag に保存されているデータを取り込みます。
- 2 クレードル内で接続状態にある LogTag を、次回使用できるよう準備をします。

このウィザードはソフトウェアの重要な部分であり各ステップで使用されます。

ようこそ

LogTag ウィザードははじめに「ようこそ」の画面を表示します(この画面がアクションリストの1番目にあたります)。LogTag がインターフェース・クレードルにしっかりと挿入されていることを確認する画面です。



このウィザードでは、「アクションステップ」を行なっていきます。「アクションステップ」はウィザードウィンドウの左側にリストアップされています。

次画面に移動するには **Next >** ボタンをクリックしてください。ウィザードの次の画面が表示されます。緑色の矢印が移動して、2番目のステップに移ったことを示します。

LogTag の検出、関連データのダウンロードと保存

Location	Interface Model	LogTag ID	Readings
USB	LTI/USB	0004310317	455
✗ USB	LTI/USB	Not found	
COM1	LTI/R5232	000B110337	7906
✗ COM2	Not found		

この画面では、表中の各項目のとなり以下のようなイラストが表示されます。

- (イラストなし)ソフトウェアがまだ通信ポートを使用していることを示しています。
-  LogTag からのデータ回収、およびディスク内への保存に成功しました。
- LogTag からのデータ回収に成功しました。ディスクへの保存は必要ありませんでした。
- ソフトウェアは、通信ポートに接続されたクレードルを検出できませんでした。または、クレードル内に LogTag を検出できませんでした。
-  LogTag は繰り返し使用できない状態です。また、次回使用のための設定もできません。LogTag の使用を終えたら一旦販売業者または代理店に返却してください。LogTag 内に保存されている情報は引き続き回収可能な状態となります。

LogTag はシリアル番号と記録値の数により、ほぼ瞬時に認識されます。一度に複数の通信ポートをご使用になることができ、その場合ウィザードはすべての LogTag を検出します。

使用していない通信ポート(最初は マークで表示されます)は、**option(オプション)**を選択すると削除することができます。すぐに行う必要はありませんが、これを行うとウィザードウィンドウをすっきり見せることができます。

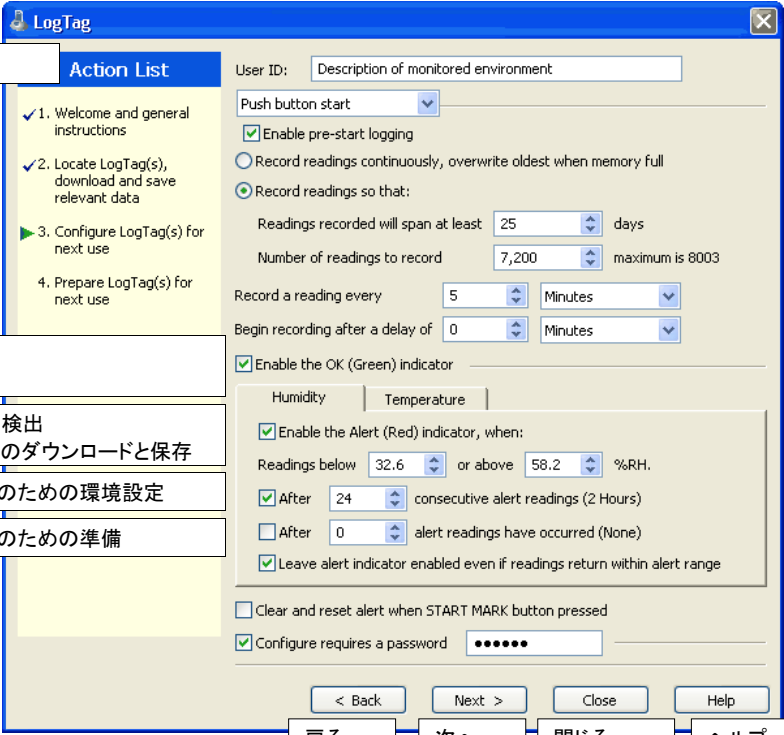
次画面に移動するには ボタンをクリックしてください。ウィザードの3番目の画面が表示されます。それぞれのクレードル内に LogTag が検出され、情報の回収に成功すると、ユーザーが ボタンをクリックしたかのように、ソフトウェアは自動的に次のステップへと進みます。

次回使用のための環境設定

アクションリスト

Action List

1. ようこそ
概要説明
2. LogTag の検出
関連データのダウンロードと保存
3. 次回使用のための環境設定
4. 次回使用のための準備



ユーザー ID: モニターする環境について記載

スタートボタンで記録を開始

- スタート前予備記録を有効にする
- 継続的に測定値を記録する。メモリーが一杯になった場合古い記録から上書きする。
- 以下の条件で測定値を記録
 - 記録期間 最低 25 日
 - 予定記録回数 7200 回 最高 8003 回
 - 記録間隔 5 分毎
 - 0 分後に記録を開始(スタートボタンを押してから記録開始までの猶予時間)
- OK ランプ(緑色)を有効にする

湿度 | 温度

- 以下の条件で Alert(警告)ランプ(赤色)を有効にする
 - 測定値が 32.6%RH 以下 58.2%RH 以上
 - 許容範囲外の数値が連続 24 回記録された後(2時間継続後: 5分間隔 × 24 = 2時間)
 - 許容範囲外の数値が 0 回記録された後(0分)
 - 測定値が許容範囲内に戻った場合も Alert(警告)ランプを有効にしておく
- START MARK ボタンで警告状態を解除しリセットする
- 環境設定のためのパスワードを設定する

戻る 次へ 閉じる ヘルプ

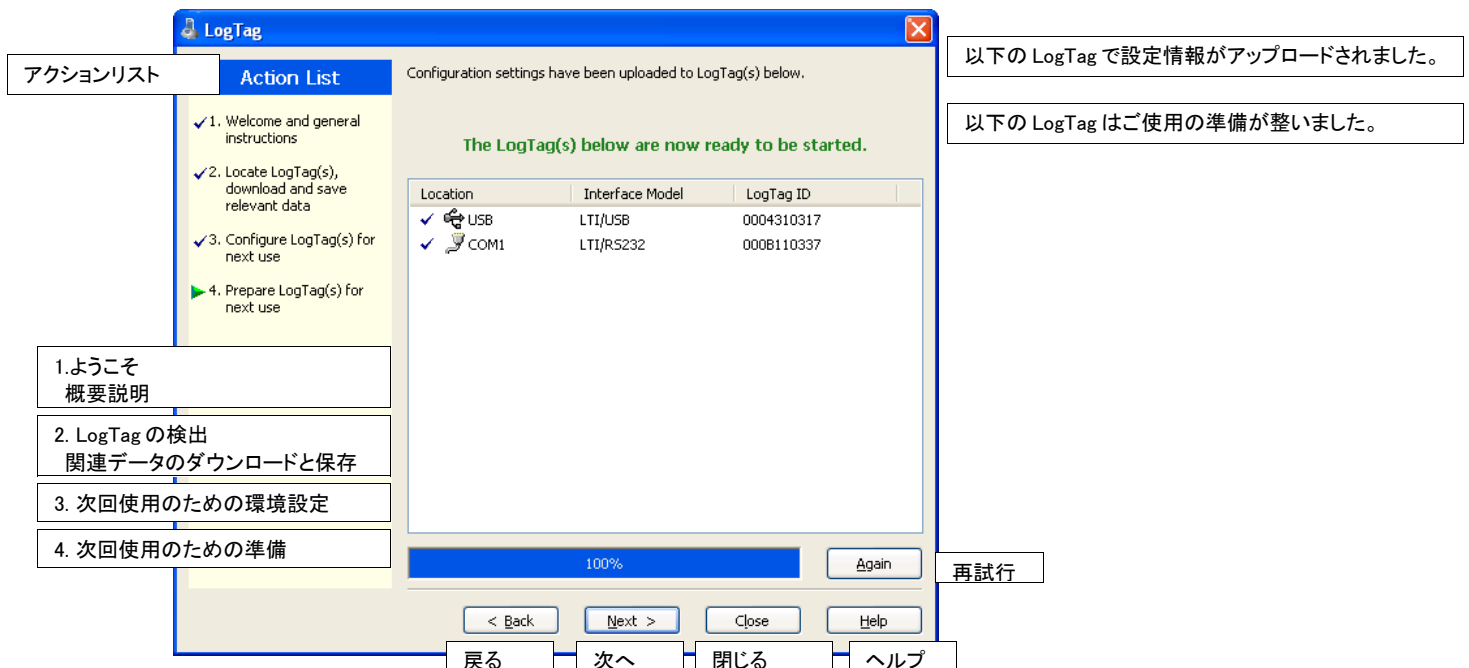
測定期間中の LogTag の動作や、データの記録方法を適切に管理していただくため、複数の選択肢から選ぶことができます。これらの選択項目については、12 ページ「[Preparing LogTag for use](#)」の章で詳しく解説しています。 ボタンをクリックすると設定情報が記憶され、最終確認画面が表示されます。

次回使用のための準備

ウィザードの最後の画面では、次回ご使用になるための準備として、新しい設定情報を各 LogTag に送信します。ソフトウェアが新しい設定情報を LogTag に送信している間、ウィンドウの上部には下図のような表示がでます。送信は 20 秒以内に完了します。



各 LogTag へ設定情報のアップロードが終了すると、下図のようにウィンドウに状況が表示されます。



この画面では、表中の各項目のとなり以下のようなイラストが表示されます。

- (イラストなし) LogTag は次回使用のための準備がまだ完了していません。
- ✓ LogTag は次回使用のための準備ができました。
- ✗ LogTag は次回使用のための準備に失敗しました。 ボタンを押して再試行してください。
- 🔋 LogTag の電池残量が少ないため、次回ご使用の際に、希望するすべてのデータを記録できない恐れがあります。この場合、LogTag はこれ以上ご使用になることができません。

すべての LogTag で新しい設定情報のアップロードが完了したら、 ボタンをクリックしてウィザードを閉じてください。これで LogTag の使用を開始することができます。

この画面では自動ダウンロード機能が無効になっています。 ボタンを使って別の LogTag の環境設定を行うと、LogTag 内のデータを保存しない状態で設定情報をアップロードすることが出来ます。

LogTag の使用を開始する

環境設定が完了すると、LogTag は使用可能な状態となります。LogTag での記録を開始するには2つの方法があり、環境設定の際に選択することができます。この方法については、12 ページ「[Preparing LogTag for use](#)」の章で詳しく解説しています。

- 1 OK ランプと Alert (警告) ランプが交互に点滅するまで LogTag の START MARK (スタートマーク) ボタンを押し続けてください。
- 2 環境設定で設定した日時までお待ちください。設定日時に達すると自動的に記録が開始されます。記録が始まるまで START MARK (スタートマーク) ボタンは無効となります。

また、記録が行われている間、いつでも LogTag のデータ上に「検査 (inspection)」マークを記録することができます。OK ランプと Alert (警告) ランプが同時に点滅するまで START MARK (スタートマーク) ボタンを押し続けてください。記録中は何度でも検査 (inspection) マークを記録できますが、1つの記録値につき1個の検査 (inspection) マークしか記録できません。つまり、15 分間隔で測定値を記録するよう LogTag を設定した場合、検査 (inspection) マークは最低 15 分間隔で記録されます。記録が終了すると、次回使用のための設定が終わるまで START MARK (スタートマーク) ボタンは無効になります。

LogTag の記録を開始 (START MARK (スタートマーク) ボタン、または日時設定により) した後の Alert (警告) ランプと OK ランプの動作については、11 ページ「[LogTag light patterns \(LogTag の点滅パターン\)](#)」のセクションで詳細を説明しています。



LogTag の点滅パターン

LogTag の LED ランプには、さまざまな事象や状況を伝える役割があります。下表は点滅パターンをまとめたもので、ご使用中以下のように点滅する場合があります。

シグナルの意味	点滅パターン	状況
ウェイクアップ・シグナル	緑と赤の LED ランプが交互に 4 回点滅	<ul style="list-style-type: none"> LogTag に新しい環境設定が適用されました。 LogTag が節電モード(「Hibernation - Prolonging battery life」参照)から回復しました。 <p>下の点滅パターンと混同しないようご注意ください。</p>
スタートアップ・シグナル	緑と赤の LED ランプが交互に 16 回点滅	<ul style="list-style-type: none"> LogTag が記録を開始しました。
検査 (inspection) マークの記録	緑と赤の LED ランプが同時に 5 回点滅	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアで検査 (inspection) マークを表示させるため、記録中 start/mark (スタート/マーク) ボタンを押した場合に表示されます。 スタートボタンを押してから記録開始までの猶予時間を設定している場合、スタートボタンを押してスタートアップ・シグナルが点滅した直後に表示されます。この場合、実際の記録開始時に再度スタートアップ・シグナルが点滅します。
記録中です 警告状態はありません	緑の LED ランプが約 4 秒ごとに点滅	<ul style="list-style-type: none"> LogTag が記録中であることを示しています。 <p>スタート前の予備記録状態にあり、メインの記録サイクルが始まっていない間は表示されません。環境設定画面で緑の LED ランプを無効にしている場合も表示されません。</p>
記録が終了しました 警告状態はありません	緑の LED ランプが約 8 秒ごとに点滅	<ul style="list-style-type: none"> LogTag が記録を終了したことを示しています。 <p>環境設定画面で緑の LED ランプを無効にしている場合は点滅しません。</p> <p>LogTag が節電モードから回復した場合もこのような点滅が見られます。</p>
警告状態です	赤の LED ランプが 4 秒ごとに点滅	<ul style="list-style-type: none"> LogTag が警告状態「Alert Processing」参照)を検出し、かつ Alert (警告) ランプを有効にしている場合表示されます。 <p>警告状態がある場合は、LogTag が記録を終了しているかどうか判断することが出来ません。警告状態の見落としがないよう Alert (警告) ランプが 4 秒ごとに点滅します。</p>
通信	緑の LED ランプが時折点滅する	<ul style="list-style-type: none"> インターフェイスを使って通信が行われている間、緑の LED ランプが間欠的に点滅します。何らかの情報を伝えている訳ではありません。
スタートボタンが押されました	赤い LED ランプがかすかに点灯する	<ul style="list-style-type: none"> 意図的に点灯するようになっていますが、何らかの情報を伝えているわけではありません。

LogTag からデータを回収する

LogTag 内に保存された記録値をご覧になるには、本章のはじめに行なったのと同様のやり方で LogTag をインターフェース・クレードルに挿入してください。データを回収する時点でまだ記録が継続されている場合でも、データのダウンロードで記録が中断されることはありませんので、必要に応じて後で再ダウンロードすることができます。

LogTag のメモリー内に記録値が保存されている場合、ソフトウェアは自動的にデータのダウンロードを開始します。ダウンロード中は図のようなアニメーションが表示されます。

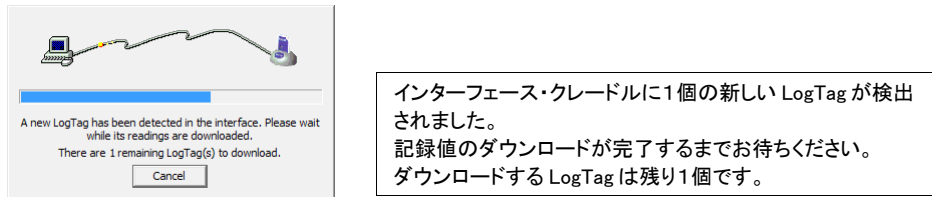


Figure 3: Downloading a LogTag Recorder

図 3: LogTag レコーダーのダウンロード

記録値の回収に成功するとソフトウェアは結果を表示します。「[Results from LogTag](#)」の章では、回収の結果表示される情報について詳しく解説しています。